

# 第1回 国際関係史


---

川島 真



# 東アジア国際政治史の諸層

---

- 1) 19世紀中頃までの東アジアの秩序
  - 2) 19世紀末からの「近代」: 主権国家、近代帝国
  - 3) 日中戦争、第二次世界大戦
  - 4) 冷戦期の東アジア
  - 5) 戦争なき時代の東アジアと経済発展
  - 6) 中国とliberal democracyの対峙
- 

# 19世紀の東アジアの国際関係

---

19世紀の重要性

1) 歴史的な意味

2) 参照基準、引照基準としての要素

元来東アジアにあった国際関係はどのようになっていたのか？

- 冊封・朝貢と言われていた制度があった。
- 日本については“鎖国”と言われていた。
- 琉球は清と薩摩藩との両属とされてきた。

結論を言えば、一元的な東アジア国際関係システム、制度というものは存在していない、と考えていい。

# 冊封・朝貢関係

---

ただし、ひとつの理念として冊封・朝貢関係がある。

✖ 現在このイメージを表示できません。

✖ 現在このイメージを表示できません。

# 冊封・朝貢関係

---

清の中で理念化されていた華夷思想

- 華＝王朝、夷＝周辺
- 徳化の論理。版図とその外側。
- 皇帝の“徳”を受け入れた者を“冊封”

臣下の礼に基づく関係①冊封

- 臣下の礼をおこなって「国王」に任命。
- 曆と印璽が与えられる。
- 毎年ではなく、新しいリーダーの出現、国王交代の時に  
おこなわれる。

# 冊封・朝貢関係

---

## 臣下の礼をともなう関係②朝貢関係

- 特定の時期、特定の場所を經由して使節が北京を訪れ、臣下の礼をとる。また、貢物を皇帝に差し出す(進貢)。
- 皇帝からは回賜。それと同時に使節が北京、入港場、そのほかの場所で交易許可。税などの優遇？
- 朝貢関係は基本的に経済貿易。

# 三跪九叩頭

---

圖表(省略)



# 冊封・朝貢への考察

---

1) 華夷思想に基づく関係。“臣下の礼”がある点で上下関係。対等ではない。ある国が複数国と同様の関係をもつことも。

2) この“臣下の礼”の**意義は共有されていたか**？上下関係だと認識されていたかは疑問。漢文テキストでは確かに上下があるが、外国語の原文ではどうか？一部検討されている言語では対等なものも。漢字を理解する国とそうでない国との間に、認識の相違があったのではないか。



# 冊封・朝貢への考察

---

3) 誰が冊封・朝貢をおこなっていたか。しばしば、海外に移住した華僑がおこなっており、複数国の冊封・朝貢を請け負っていた事例も。彼らは、これにより朝貢貿易の利益をあげていた、とも理解できる。だが、国王が貿易を独占する事例も。

4) 冊封・朝貢と貿易との関係。明と清の前半(1683年まで)。朝貢関係になくても、貿易はできる(1684年から)。→ 逆に朝貢して貿易するメリットはどこにあるのかが、むしろ問題になる。

# 冊封・朝貢をめぐる状況

---

1) 中国以外の国々にも受容された華夷思想、対外関係。そもそも、類似した関係性は少なくない。

→“中華”、“中国”は普通名詞。

(朝鮮、ベトナム、あるいは日本も)

2) 清の対外関係も多様。冊封朝貢関係＋貿易のみ(互市国)＋与国(対等?)など。相手国によっては、貿易を朝貢に限定して貿易独占を図っている(相手側の問題)

3) 清は時に冊封使を派遣するが、相手国の内政には不干渉。

# 東アジアの国際関係

---

冊封・朝貢はシステムといえるか？それぞれの相互認識も異なる。ひとつの理念が共有されていたりするとは思えない。だが、だからといって全くまとまりがないとか、共通の地盤がないというのではない。

中国が大国であることは前提。

→中国を中心とする地域秩序があったといえるのか？

\* 中国自身の認識と周辺国の認識

# 互市の世界

---

1) 互市＝儀礼などをともなわない貿易。長崎も含まれる。

2) 1684年に開始。沿岸部の4港。西洋諸国もそこで貿易。しかし、1750年代に広州一港に限定されたとされる。また、広州貿易では分量、内容、貿易相手、時期などにわたる規制。居住はマカオ。イギリス商人に不満。

喫茶の習慣。大量の銀の清への流入。

18世紀の清の繁栄

# アヘン戦争への道程

---

19世紀初頭の清：18世紀に人口が3倍増、乾隆帝の時代の繁栄から次第に低成長に。人口増大時代の新開発地帯から次第に混乱。白蓮教徒の乱。

## アヘン戦争原因論

イギリスからの戦略商品がアヘン。中国から銀を回収する三角貿易。清からの銀の流出。社会不安につけこむかたちで拡大していく。

清の側の対応。林則徐の嚴禁論。

→何が問題なのか？冊封の問題か？

# アヘン戦争の経緯

---

## 1) 西洋側の軍事経験

ナポレオン戦争以来の大砲、蒸気船

→軍事技術、科学技術

## 2) 南京条約へ

(図表: 省略)